

■大船渡の最大1時間降水量ってどのくらい？

短時間強雨に注意しましょう



昨年9月18日の大雨では、市内の数カ所で土砂崩れなどの災害が発生しました。



ハザードマップ

大船渡市 水害ハザードマップ 検索

大船渡では、昨年9月17日夜から18日にかけて、降り始めからの総雨量が191・5mm【※1】に達する大雨が降りました。ちょっとした気象条件の違いで、前提条件のような雨量に達する恐れがあります。

自分の身の回りで起こり得る災害を、ハザードマップで確認するとともに、大雨が予想される時は、気象庁から発表される情報に注意しましょう。

気象庁では、災害が発生する恐れのある場合、注意報・警報や、土砂災害警戒情報などを発表します。その際にとるべき行動について、下の表で確認しましょう。

自らの判断で避難ができるよう、準備をしておきましょう

このような雨が降った場合、舗装が多い都市部や河川の集まる河口付近では、河川や下水道の排水能力を超え、短時間のうちに浸水が起る恐れがあります。

全国的に局地的な大雨の頻度が増えています

全国の1時間降水量50mm以上の年間発生回数は増えており、最近10年間（2012～2021年）の平均年間発生回数は、統計期間の最初の10年間（1976～1985年）と比べて約1・4倍【※3】となっています。

統計を開始した1963年8月以降の大船渡の日最大1時間降水量は、2019年8月8日に観測した58・0mm【※2】であり、表1の「非常に激しい雨」に該当します。

【※1、2】…気象庁「過去の気象データ」引用 【※3】…気象庁「全国(アメダス)の1時間降水量50mm以上の年間発生回数」引用

【表2】防災気象情報をもとにとるべき行動と、相当する警戒レベルの一覧表

気象庁が発表する情報	市民の皆さんがとるべき行動	市が行動を促す情報	警戒レベル
大雨特別警報 氾濫発生情報 など	何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況となっています。命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保してください。	緊急安全確保	レベル5相当
土砂災害警戒情報 氾濫危険情報 など	危険な場所からの避難が必要です。避難指示の発令に留意するとともに、避難指示が発令されていなくても、気象庁ホームページや河川の水位情報などを確認して自ら避難の判断をしてください。	避難指示	レベル4相当
大雨警報 洪水警報 氾濫警戒情報 など	高齢者は危険な場所からの避難が必要です。高齢者等避難の発令に留意するとともに、高齢者以外も気象庁ホームページや河川の水位情報などを用いて避難の準備をしたり自ら避難の判断をしてください。	高齢者等避難	レベル3相当
大雨注意報、洪水注意報、氾濫注意情報など	ハザードマップなどにより、災害が想定されている区域や避難先、避難経路を確認してください。	—	レベル2相当
早期注意情報 など	最新の防災気象情報等に留意するなど、災害への心構えを高めてください。	—	レベル1

市からの避難情報の入手方法

災害が発生する危険性が高まった場合、市は避難情報を発令します。避難情報は、市ホームページや各種SNS、防災行政無線などで市民の皆さんへお知らせします。避難情報を入手する準備をしておきましょう。



市公式 LINE



市公式 Twitter



市公式 Facebook

インターネットによる情報

■大船渡市ホームページ

<https://www.city.ofunato.iwate.jp/>



■岩手県土砂災害警戒情報システム

<http://sabo.pref.iwate.jp/dosha>

■岩手県河川情報システム

<http://kasen.pref.iwate.jp/>



# 大雨による災害から身を守りましょう

これから10月にかけては、台風や集中豪雨などにより、土砂・洪水災害が発生しやすい時期です。市では、避難指示などについて、明るいうちに十分な避難時間を確保できるよう、早めに防災行政無線や各種SNSなどでお知らせしています。日ごろから、お住まいの地域における土砂・洪水災害に備えておき、速やかな避難行動を心掛けましょう。

▷ 問い合わせ先＝防災管理室 (☎内線251)

## 大雨による災害をイメージしましょう

自分の身を守るためには、どのくらい雨が降った時に、どのような状況になるのか、また、どのような災害が起きるのかをイメージすることが必要です。下表の「雨の強さと降り方」を参考に、イメージをしましょう。

ハザードマップに示される浸水想定区域の雨量は、次の値を条件としています。

- 盛川および鷹生川の場合、2日間の総雨量766mm (想定最大規模の大雨)
- 中井川および立根川の場合、2日間総雨量352mm (100年に1度の大雨)

【表1】雨の強さと降り方

1時間雨量と予報用語	やや強い雨 10～20mm 未満	強い雨 20～30mm 未満	激しい雨 30～50mm 未満	非常に激しい雨 50～80mm 未満	猛烈な雨 80mm 以上
イメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	・息苦しくなるような圧迫感がある。 ・恐怖を感じる。
人への影響と屋外の様子	地面からの跳ね返りで足元が濡れる。	・傘をさしていてもぬれる。 ・車の場合、ワイパーを早くしても見づらい。	側溝などがあふれ、道路が川のようになる。	・傘がまったく役に立たなくなる。 ・水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	
災害の危険性	この程度の雨でも、長く続くときは注意が必要	側溝や水路、小さな川があふれ、道路が冠水する恐れや、小規模ながけ崩れの恐れがある。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。	土石流が起りやすい。また、多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生するおそれ強く、嚴重な警戒が必要。